

山口省藏が訊く

## 金融業界の課題を読み解く

### 熱い!! 金融対談

#### 第42回 希望のまちをつくる

奥田 知志、田崎 辰夫（ゲスト）× 山口 省藏（聞き手）



山口 奥田さんがホームレス支援を始めた経緯を教えてください。

奥田 困窮者問題に初めて関わったのは、大学1年生の時（1982年）でした。平凡なサラリーマン家庭で何不自由なく育つ5月に、大阪の金ヶ崎という寄せ場（日雇い労働者が集まる場所）に大学の先輩に連れて行かれました。そこでは、仕事に就

本連載は、金融業界における課題をテーマに、「熱い金融マソニ協会」を主催する山口省藏氏による識者との対談をお伝えするものである。今回は、北九州市でホームレス支援に尽力されるNPO法人抱樸代表で牧師である奥田知志氏と、抱樸などのNPOに融資を行ってきた九州労働金庫の田崎辰夫氏を迎えて、ろうきんによるNPOへの融資について鼎談を行つた。

#### ●ホームレス支援と労働者の構造変化

山口 活動を始めたのは1988年12月です。北九州のキリスト教関係者が中心でした。5人で、おにぎりを握つて、寝ている人たちのところへ持つて行きました。その頃は、このような事業になるとは思つていませんでした。最初の年から12年せんでした。最初の年から12年後、2000年にNPOとして「北九州ホームレス支援機構」を設立しました。その時でさえ事務局の職員が1名で、あとはボランティアで運営していました。

奥田 2008年に、リーマン・ショックでホームレスが急増した時、「これは単なる景気の問題ではない。社会構造が変わつてしまつている」と思いました。日本は、長期雇用慣行でどうりとした中間層を作つてきました。そこでは、仕事に就

けなかつた労働者の多くが野宿で暮らしており、市内の行路病死者が年間200人以上出ています。なのに、新聞にも載らない。私は、日本は豊かで安全で平等な国だと思っていましたが、そのイメージが崩れました。大学院を卒業するまでの6年間の釜ヶ崎でのボランティア活動をしたことが出発点になります。その後、福岡にある西南学院大学に進み、牧師になります。

山口 北九州に来てからのホームレス支援活動は、どのように始まつたのですか？

奥田 活動を始めたのは1988年12月です。北九州のキリスト教関係者が中心でした。5人で、おにぎりを握つて、寝ている人たちのところへ持つて行きました。その頃は、このような事業になるとは思つていませんでした。最初の年から12年せんでした。最初の年から12年後、2000年にNPOとして「北九州ホームレス支援機構」を設立しました。その時でさえ事務局の職員が1名で、あとはボランティアで運営していました。日本は、長期雇用慣行でどうりとした中間層を作つてきました。そこでは、仕事に就

ル」という番組に2回出演していますが、最初に出た2009年時点では私は無給のボランティアだったのでプロフェッショナルではありませんでした。収録の最後に「プロフェッショナルとは？」というトーキングがあります。そのとき「実は私、プロではありません」と言つて、「番組名がプロフェッショナルなので、プロじゃないと言つてはダメです」と言われました（笑）。

NPO法人の理事長就任挨拶では、「1日も早い解散を目指し、今日から始める」と言いました。社会問題を扱うNPOが発展することは、社会が悪化しているということです。我々は自分たちの存在を消すことを目的に活動を始めたのでした。

山口 その後も、ホームレス支援の活動は広がつていったのですよね？

奥田 2008年に、リーマン・ショックでホームレスが急増した時、「これは単なる景気の問題ではない。社会構造が変わつてしまつている」と思いました。日本は、長期雇用慣行でどうりとした中間層を作つてきました。そこでは、仕事に就

た。これが戦後社会保障システムのベースにもなっています。生活保護で月に約11万円をもらえるのに、なぜ国民年金では6万8千円しかもらえないのか。生活保護は資産を持てない人が対象ですが、年金は、受給者が退職時には住宅などの一定の資産を持つている前提で設計されています。この前提の崩壊が明確になつたのが2008年の年越し派遣村です。あの段階で、若者を中心とした非正規雇用が4割に近づいていました。その人たちが65歳になつても、年金の前提である持ち家もなければ退職金もない。社会の中間層の底が抜けてしまつて、ホームレスと隣り合わせになつてしまつていました。

それで2013年の活動開始25年のときに、「解散しない宣言」をして、それまでのホームレス支援といった問題解決型の名称を「抱樸」に変更しました。抱樸とは、荒木（樸）をそのままに抱きとめるという意味です。荒木にはとげがあるので抱いても支援を必要とする人を抱く、という意味も含みます。その頃、私は牧師の仕事の一部を引き継いでもらえる人をよび、抱樸の仕事に有給スタッフとして携わるようになりました。このあたりから困窮者支援とともに地域作りが本格化しました。山口 非正規雇用の拡大により、中間層だと思っていた人たちが奥田さんたちの支援の範囲に入つてきました、ということですね。田崎さん、奥田さんの今の話を聞くと、正規雇用の労働組合のみを通じて金融服务を提供しているだけでは、ろうきんが労働者の構造変化に対応していない、ということがありますね。

田崎 そのとおりです。私たちは、組合員を中心事業を行つてきました。そこには、他金融機関のリテール戦略の波が押し寄せてきています。従来の労働者福祉の枠を超えて、社会福祉事業が半分、自主事業が半分です。自主事業の中には、介護事業や障害福祉事業などの採算性のある事業がある一方、子ども支援やホームレスの炊き出しなど、採算がとれないものがあります。採算がとれる事業でお金を確保して、不足する事業に回しています。それでも不足する部分を賄つてているのが全国からの

## ●寄付の安定性

寄付になります。

**山口** 寄付はどの程度、NPOの財政を支えているのですか？

**奥田** 今では、収入全体の10%

盤について教えてください。

**奥田** 抱樸は、地方のNPO法人としては所帯も大きく、パート従業員も含めれば120名ほどが働いています。2024年

5月時点では、ボランティア登

録者が2000名を超えていま

す。このほか、北九州市内での

活動には参加できなければ毎

月千円～1万円を寄付してくれ

る全国のマンスリーサポーター

が1500名ほどです。

すべての事業を合わせると年

間5～6億円の規模になります。

国や自治体などからの委託

事業が半分、自主事業が半分で

す。自主事業の中には、介護事

業や障害福祉事業などの採算性

のある事業がある一方、子ども

支援やホームレスの炊き出しな

ど、採算がとれないものがあり

ます。採算がとれる事業でお金

を確保して、不足する事業に回

しています。

それでも不足する部

署もあります。

**山口** 私もNPO等に寄付をし

ていますが、毎月、定額をクレ

寄付になります。

山口 寄付はどの程度、NPOの財政を支えているのですか？

奥田 今では、収入全体の10%に当たる年間5千万円くらいの寄付が集まる団体になります。最初の10年～15年くらいは、「寄付はしてもらえればラッキー」。来なかつたら仕方がない」という感じでいました。

しかし、15年くらい前に、「予算書では寄付の収入は0としており、決算書では相当額が計上されるのはおかしい」と専務の森松に伝えました。「寄付を事業化すべきだ」と。我々の活動は社会創造であり、寄付は社会参加の第一歩です。寄付者は、単なる支援者ではなく「参加者」です。その後、寄付は予算化されました。「寄付してもらえるからじゃないかわからないものを予算に入れるのか」「寄付を見越して支出をした後に足りなくなつたらどうするのか」等、いろいろな議論を行つた結果です。現在は、それを担当する部署もあります。

山口 私もNPO等に寄付をしていますが、毎月、定額をクレ



●ホームレス支援は「学生時代の一つの体験」から始まった奥田氏

には、コロナ禍で仕事と住まいを失つた人を支援する支援付き住宅を目的に1億1千5百万円を集め、全国10のNPO団体に託し支援付き住宅を200室作りました。結果、日本ファンドレイジング大賞をいただきました。

ジットカードで引き落とす形式になっています。このようなサブスク型の寄付を実際にしていると、「よほどのことがない限りはやめないだろうな」と感じます。NPO側からみると、安定したキャッシュフローが見込めるはずです。

奥田　そうなのです。最初の頃は、クレジットカードの引落しがわからない方用に金融機関の振替口座用紙を渡していました。マンスリーサボーテーが始まったのはここ6～7年です。そういう時代になりました。

テーマによつては、クラウドファンディングで集中的に集めることもあります。2020年

山口　田崎さんと抱樸との出会いはいつですか？

田崎　2017年に九州労働金庫（以下、「九州ろうきん」という）に福祉金融推進室（現在の福祉金融推進課）が設立され、私が初代の室長でした。当然、抱樸の活動については知つていました。せつかく同じ九州にいるのだから、一度訪ねてみようと思い、2018年1月にお伺いしました。その後、抱樸が行う炊き出し（夜回り）の活動などにも参加しました。

### ●田崎さんと抱樸との出会い

山口　融資など、取引を行つたりはありますか？

奥田　抱樸の事業の半分を占める自治体等からの委託事業では、実際の事業が先行して行われても、清算が年度末になることがあります。1年分の費用を先出ししなければなりません。その時も資金繰りの見通しが厳しかったので、理事会の議論の中で、「ろうきんに相談してみたら」と言いました。

山口　委託事業の発注元は、どちらですか？

奥田　国からの直接事業もありますが、北九州市や福岡県が多いです。

山口　最終的な支払いは確かな先ですね。

田崎　融資の相談があつた時に、事業別の收支をチェックしました。不採算部門も少しあります。全体では收支は安定しました。返さなくてもいいのに」とは思いました（笑）。

奥田　2022～23年の2年間で、希望のまちの土地と建物の両方での寄付が3億1千万円集

### ●希望のまちプロジェクト

熱い!! 金融対談



- 「社会的意義と事業体の健全性を見極め融資を行った」と田崎氏

ると、その社長は、「街のために、福祉のために使つてもらえたならよいと思う」と言っておられました。私はそのニュースを見て、北九州市に「持ち主を紹介してほしい」と伝えました。地域では「工藤会が再び戻つて来るのではないか」「マンションが建つて、そこに元

ことでした。確かに、周辺の地価だけで考えれば数倍の価値があると思いました。その日の交渉は不調に終わり、しょんぼりして帰りました。しかし翌朝、社長からお電話をいただきました。「奥田さんが置いて行つた資料をすべて見ました。良いことをしていますね。もう一度話がしたい」と。結局、1億2千5百万円で決まりました。九州

とは言わない。希望のまちでは、あの子はうちの子、あの子はよその子とはしません。ここに来たら、みなが希望のまちの子です。これを「家族機能の社会化」とよんでいます。地域で受け入れる場がないから、ヤクザに若者が行ってしまう。家族機能を提供する場を作らなければ、社会的な街を希望のまちに変ることはできないのです。だから

**山口** 耶得土地は経済危機の高い場所だつたのですね。しかし、暴力団の本部があつた土地をどうみるかによつて評価は変わると思想います。その点に関して、九州ろうきん内では、どのような議論がされたのですか?

奥田 工藤議会に対する税金の差押えがあつて、暴追セントラーが管理者になりました。その後、この土地を福岡の企業が購入します。この企業の社長が、匿名で顔も出せない状況で取材に答えておられる様子がニュースで流れされていました。その中で「跡地をどうするのか」と尋ねられ

山口 定常的な収入の見通しが  
融資判断の決め手になつたので  
すか？

田崎 購入した土地は、利便性  
が良く、実質価値が高く見込めま  
した。その点もプラスに考えま  
した。

員からは「よくやりますね。大丈夫ですか?」と言われました。対応に悩みましたが、土地取得に至るまでに、福岡県暴力追放運動推進センター(以下、「暴追センター」という)が間に入つていたので、「問題ない」と考

の暴力団関係者が入ってくることは避けたい」「ここで何か商売が行われても、それに対する嫌がらせが始まるのではないとか」など不安がありました。北九州市のバックアップのもと、我々が新たな施設運営に取り組むのが一番良い、と考えました。

「地域づくり」ならほかの場所でもできるのですが、工藤会本部の跡地で行うことには私は、特別な意味があると考えました。誰にも受け入れられない、

ら「どうしてもここでやりたい」と言いました。周りはとても心配していましたが。

## ●金融機関からの融資の意義

山口 想定以上の寄付が集まつたのは、そのコンセプトへの共感の結果だと思います。ろうきんから融資を得られたことは、どういった意味があつたのでしょうか？

奥田 このプロジェクトの記者会見に、九州ろうきんに出てもらいました。ろうきん自体が暴力団関係者から因縁をつけられるリスクも意識されたとは思いますが、田崎さんたちが勇気ある決断をしてくれました。これによつて、一般の人からも、我々の取組みは、ちゃんとした金融機関が脇を固めている、とみてもらえます。我々のプロジェクトが社会的信用を得たということです。だから、記者会見で、「ろうきんからお金を借りました」と話をさせていただきました。

山口 田崎さん、このプロジェクトへの融資審査は、すんなり

通つたのですか？ そもそも、ろうきんの中心となる住宅ローンの平均融資額は2～3千万円ですよね。1億円を超えるNPO向けの融資で、いわくつきの土地取得案件であつたならば、もめてしかるべきかと思います。

田崎 最初に抱樸の森松専務から「暴力団本部跡地の土地を買いたいが融資可能か？」と連絡をいただいた時、「やつたー！」

（信頼を得た）と思つたことは

今でも忘れられません。思わず勢いで「融資しましよう」と勝手に返事しそうになつたことも

：（笑）。すでに抱樸へは運営資金の融資を行つていてることもあり、抱樸の事業体に対する審査はクリアできていきました。問題は、この案件に融資できるかどうかでした。私は、「これほど社会的な意義のある活動を行つてNPOであるからこそ融資すべきではないか」と強く主張しました。

田崎 2001年は別府支店に勤務していましたが、その時の上司が児童養護施設をプライベートで支援していました。上司から「おまえもどうだ」と誘惑を追加し、融資を了承してもうれて行つたのがきっかけであります。2007年から2012年の間、統括本部で経営企画と営業推進を担つたときに、NPO支援に個人的に関わるようになりました。

山口 NPO向けの融資への取組みは、いつ頃からですか？

田崎 2013～2014年に大分県本部の業務推進課長だつた時に、現在の「おおいた子ども支援ネット」のNPO起ち上げに関する相談がありました。

山口 田崎さんがろうきんへ就職したのはなぜですか？

田崎 私は大分出身なので、1986年4月に大分県労働金庫へ就職しました。2001年10月に、大分県労働金庫は7つ（福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島）の金庫と合併して九州ろうきんとなりました。

山口 田崎さんがNPO支援に関わるようになつたきっかけは何ですか？

田崎 2001年は別府支店に勤務していましたが、その時の上司が児童養護施設をプライベートで支援していました。上司から「おまえもどうだ」と誘惑を追加し、融資を了承してもうれて行つたのがきっかけであります。2007年から2012年の間、統括本部で経営企画と営業推進を担つたときに、NPO支援に個人的に関わるようになりました。

山口 NPOへの融資で注意すべき点にはどのようなことがありますか？

田崎 子ども支援や就労支援等

## ●九州ろうきんにおけるNPO向け融資

山口 NPO向けの融資への取組みは、いつ頃からですか？

田崎 2013～2014年に大分県本部の業務推進課長だつた時に、現在の「おおいた子ども支援ネット」のNPO起ち上げに関する相談がありました。

山口 NPOへの融資で注意すべき点にはどのようなことがありますか？

田崎 子ども支援や就労支援等

## ●NPO向け融資の課題



●ろうきんとNPOによる労働者福祉を越えた社会福祉に取り組む、熱い鼎談が行われた

山口 委託事業の発注元である市役所でマーケットの全容が一発でわかるのですね。事業者としてのポジショニングが簡単に確認できるとなれば、むしろ融資しやすいかもしれませんね。

田崎 市役所等に行けばわかります。どれだけの支援対象者がいて、同業者がどれだけいるかは調べることが可能です。

山口 住宅ローンの平均額よりも低いですね。ろうきんでは、通常の住宅ローンなら対応手順が確立している一方、事業者向けは異例案件ですよね。同じ金額では手間に見合わないと思うでしょうね。

田崎 そのとおりだと思います。審査段階だけではなく、その後の債権管理も職員に苦手意識があります。

山口 職員の皆さんがやりにくい気持ちはわかります。どの金融機関でも同じですが、個人の評価を数字で考えられてしまうと、簡単に数字を稼げるるものに目

向かうNPOへの融資は、ろうきんが踏み込んでいくべき

では、対象としている市場の需要と供給をチェックします。地内で支援対象者の奪い合いになつてないか、ということです。

山口 どうやってチェックするのですか？

田崎 市役所等に行けばわかります。どれだけの支援対象者がいて、同業者がどれだけいるかは調べることが可能です。

山口 それを前提に、資金繰りを確認しています。

田崎 NPO向けの平均融資額はどれくらいですか？

山口 1千万円前後です。

田崎 そうなんです。だからこうした案件が、百万円単位の少額で相談されたら、敬遠されがちです。費用対効果だけで見られたら無理です。現場には、「とりあえず断らずに、本部の私たちに電話をつなぐように」と伝えています。現段階では、広報的な効果、福祉金融機関としての実績を示せるのを重視しています。NPO向けの融資に関し、相談件数の目標は持っていますが、目標額を立てたら方向性がブレてしまします。今はむしろ案件の掘り起しが重要だと思っています。

山口 私は、戦後、ほとんどの金融が産業向けを対象にしていましたが、労働者への融資がビジネスになると思っていた人が誰もいなかつた頃、金融排除されていました。労働者向けに金融サービスを提供し始めたのがろうきんの原点だと思っています。その創業者の精神に照らせば、日本の労働者の構造が変わってきたなかで、非正規雇用者の課題などに

がいつてしまいがちです。田崎 そうなんです。だから、こうした案件が、百万円単位の少額で相談されたら、敬遠されがちです。費用対効果だけで見られたら無理です。現場には、「とりあえず断らずに、本部の私たちに電話をつなぐように」と伝えています。現段階では、広報的な効果、福祉金融機関としての実績を示せるのを重視しています。NPO向けの融資に関し、相談件数の目標は持っていますが、目標額を立てたら方向性がブレてしまします。今はむしろ案件の掘り起しが重要だと思っています。

山口 私は、戦後、ほとんどの

プロフィール  
(ゲスト)

おくだ・ともし●認定NPO法人抱樸理事長／東八幡キリスト教会牧師。1990年西南学院大学大学院卒業後、同教会牧師として赴任。98年ホームレス支援活動を始め、2000年NPO法人北九州ホームレス支援機構を設立(14年より抱樸に名称変更)、理事長に就任。たさき・たつお●九州労働金庫事業部長(対談当時)。1986年大分県労働金庫(現九州労働金庫)に入庫。営業畠で融資や渉外を中心に6店舗21年間経験後、2007~12年総合企画部や営業推進部に従事。13年大分県本部業務推進課長。17年総合企画部福祉金融推進室初代室長に就任し、現在に至る。

(聞き手)

やまぐち・しおうぞう●1987年日本銀行入行後、金融機関の考查・モニタリング部署を中心に担当し、金融高度化センター副センター長を経て、2018年株式会社金融経営研究所を設立。金融を通じた社会の発展を目的に「熱い金融マン協会」を運営。特定非営利活動法人金融マン協会理事長。

フロンティアだと感じます。今後、そうした取組みが拡がることを願っています。